

(事後評価)

## 杜の都ジャンプアップ事業 for 2013

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：東北大学（総括責任者：里見 進）

### プロジェクトの概要

#### (1) 新規養成女性研究者の採用計画

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
理学系	2 名	2 名	1 名	3 名	1 名
工学系	4 名	2 名	6 名	1 名	1 名
農学系	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名

#### (2) 女性研究者養成のための取組内容

沢柳フェローとして総長が任命した女性教授をメンターに充当する。各研究分野の動向を熟知している部局メンターも充当し、複数メンター制による助言・指導体制を確立する。

①世界トップクラス研究リーダー養成プログラム：異分野融合力アップ、組織・研究マネジメント力アップ、研究実務能力アップのセミナーを行い、各能力の向上を図る。

②新ネットワーク創生プログラム：女性研究者のための情報を共有・発信するとともに、積極的に研究を外部へ発信し、女性研究者が研究を先導できる研究体制の確立につなげる。

③ワークライフバランス支援プログラム：ワークライフバランスに関するセミナーやワークショップを行い、現在の制度等の周知や男性も含めた男女共同参画の意識啓発を行い女性研究者の研究スタイルの確立を支援する。

#### (3) 期待される効果

理・工・農学分野における女性研究者数の増加。女性研究者の能力及び職階のジャンプアップ。異分野融合による新たな学問の創出。男性も含めた全学の男女共同参画意識の醸成。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者 支援システム 改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

理・工・農学系分野の優れた女性教員の採用を、大学全体としてのみならず部局でも積極的に推進した。さらに、女性研究者のリーダーシップの育成を目指した質の高い養成システムを構築

し、管理職への女性教員の登用を進めたことは評価できる。

- **目標達成度**：東日本大震災の影響により、外部機関へ異動する女性教員があつたにもかかわらず、部局が女性教員を積極的に採用した。震災の影響を考慮すれば、概ね目標を達成したものと評価できる。
- **女性研究者支援システム改革**：部局予算を傾斜配分する際の評価基準として、女性教員数や女性教員採用比率を加えシステム改革を推進したこと、複数メンター制やセミナーの実施などにより質の高い養成システムを構築したことは評価できる。今後は、女性教員の上位職への登用を積極的に進めることを期待する。
- **取組の内容**：スキルアップ支援、世界トップクラス研究リーダー養成、研究スタイル確立支援、沢柳フェローによる個別相談、男性教員に対するベビーシッター代の補助などの取組を実施するとともにセミナー等で行ったアンケート結果をフィードバックし、次回以降の開催へ反映させていることは評価できる。
- **実施体制**：担当理事を室長とする女性研究者育成支援推進室を設置し、各事業担当の班員には対象部局の教員が必ず参加する体制を構築し、部局との連携を図ったことは評価できる。人事に関しては部局ごとの方針が基本となっていることから、今後は総長のリーダーシップのもと一層のシステム改革に取り組むことを期待する。
- **今後の進め方**：平成26年度に男女共同参画推進センターを設置し、総長裁量経費によりこれまでの女性研究者支援・養成策を継続しており評価できる。今後は、教員公募に多くの優れた女性研究者が応募し、女性教員の採用が促進されるような仕組みを構築し、その仕組みを他機関へ波及させていくことを期待する。